

第1回 西区の温故知新！魅力アップ検討委員会 議事録	
日 時	平成23年11月8日（火） 15:00～17:00
開催場所	西区役所 3AB会議室
出席者	<p>【委員】大江 守之、岩崎 忠雄、金子 勝雄、天笠 米蔵、林 和明、斉藤 攻、嶋田 昌子、竹谷 英樹（代理出席：葛木 健太郎）、大石 恒夫、柳川 正久、佐野 洋志 （敬称略）</p> <p>【オブザーバー】都市整備局都市再生推進課横浜駅周辺担当 同 都市再生推進課地域再生まちづくり担当 同 都市交通課都市交通経営担当 同 みなとみらい21推進課 文化観光局創造まちづくり課</p> <p>【事務局】西区長、副区長、西土木事務所長、地域振興課、区政推進課</p> <p>【コンサルタント】(株)都市・建築環境研究所</p>
開催形態	公開（傍聴者無し）
議 題	<p>1. 検討の方向性について</p> <p>2. 西区の地域資源の現状と特長について</p>
議 事	<p>■設置要綱の承認</p> <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会運営要綱（案）、会議の公開に関する要領（案）について説明 →承認 <p>■座長の選出</p> <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区の温故知新！魅力アップ検討委員会運営要綱より、座長は委員の互選により選出。 →大江 守之委員が座長に選出された。 <p>■主な意見</p> <p><u>1. 「西区の温故知新！魅力アップ検討」における議論の方向性について（資料4-2）</u></p> <p>（委員）</p> <p>今回の委員会の趣旨は素晴らしい。人、街と社会について考えていくことになると思う。</p> <p><u>2. 西区の地域資源の現状と特長について（資料4-3）</u></p> <p>（委員）</p> <p>西区は、江戸時代は東海道筋があって、明治に鉄道ができ、そして昭和になりみなとみらい地区の埋立てができて、海側に市街地が広がってきた。西区は様々で多彩な地域から構成されている区だが、鉄道によってやや分断されている。それぞれの地区も、人口が増えているところがある一方で、人口が高齢化し減少しているところも見られる。</p> <p>（委員）</p> <p>西区には東海道、横浜道、保土ヶ谷道の3つの道があり、この3つの道に囲まれているのが西区とも言える。この道を活かしていろいろなことを考えると面白いものができあがるのではないか。</p> <p>今回、西区の区制70周年を迎える際に、この三角形を中心に考えてみてはどうか。この3つの道を結ぶと西区の各地域が全部つながる。この道のつながりを大切に考えながら、地区のつながりを検討していくことがよいと思う。</p>

(座 長)

「水道道」はどのような成り立ちでできたのか。

(事務局)

野毛山に日本で初めての近代浄水場ができ、相模川の水を持ってきている。その水道のパイプがほぼ直線で相模原市から横浜市へつながり、その上水管を通した道、パイプを地下に通した道を道路として供用した、それを「水道道」と呼んでいる。

(委 員)

今、西区は子どもが少ないが、学校によっては偏りがある。教室が空いて、ゆとりがある学校もある。地域で最も悩んでいるのは、地域防災拠点の参集範囲と学区との整合性がないことである。

一方、区内では高齢化が進んでいる。子どもが成人して結婚すると一旦外に出た後、また元の家に戻って来られるような方法を考えられないかと思う。

商店街が衰退し組合を解散したところでは、防犯灯、街路灯の維持管理が宙に浮くなどの問題も発生するので、このあたりを真剣に考えていく必要があると思う。

(委 員)

古い町並みが西区の中でまだ残っている場所もある。藤棚商店街などは栄えた時期があったが、もう一度西区の中で中心的な役割を果たしていけるようにならないかと地区懇談会などでは話し合われている。

地域として懸念しているのは、高齢者が多く、みなとみらい地区や横浜駅の方に出かけていく時に交通機関がないため、外出の機会が減っていることである。

西区の交通機関をもう一度見直していただきたい。みなとみらい地区と横浜駅、古い地区と新しい地区、この兼ね合いをうまくやっつけていかなければこれからの西区の未来はないと思うので、そこが今回の一番重要なテーマかと思う。

(委 員)

西区は、連合町内会の区域の呼称が「第一地区」～「第6地区」となっているが、初めて聞く人は「第一地区」がどの辺で「第6地区」がどの辺なのか、数字で示されても分かりにくいのではないかと思う。

そこで、各地区の中心はどこかと考えると、第一地区は掃部山公園周辺、第2地区は杉山神社周辺、第3地区は藤棚商店街、久保町、東久保町や元久保町、第4地区は野毛山公園周辺、第五地区は横浜駅周辺、第6地区は浅間町や軽井沢などである。みなとみらい地区といえど誰でもわかる名前がついているので、それ以外の地区も、住民や西区を訪れる皆さんになじんでもらえる名前をつけてはどうか。

(座 長)

市町村合併の際も、新しい市町村名をつける場合にはいろいろな課題があった。名前をつけるとわかりやすくなるが、いろいろ話し合いが必要になってくるかと思う。

(委 員)

第五地区の「高島」という地名は、日本の歴史の立役者ともいえる「高島嘉右衛門」の名をとったものである。その高島嘉右衛門を「西区歴史のさんぽみち」の中にとり入れたらどうかと思う。神奈川区の高島公園に石碑があるが、例えばみなとみらい線の高島駅の1階あたりに歴史を展示するというのはどうか。

2代目横浜駅の遺構もマンションの中に残されており、そこを眺めながら散策でき、さらに掃部山公園に続いていくような散歩道を検討してみても面白い。

(座 長)

歴史的な記憶に残る場所についての「サイン」を整理すべきという意見だと思う。1980年代の後半から90年代に、東京都が「歴史と文化の散歩道」を指定した時には、地図などのサインを立てて散策できるようにした。横浜もすでにいろいろなところでサイン表示を行っており、その中に新しく西区の歴史的なポイントを入れていくというのもよいかもしれない。

(委 員)

西区民まつりが行われる戸部公園は、地域の拠点で人も集まり、人のつながりの持てる公園になっている。

国道1号線は、毎年正月2日、3日に箱根駅伝が行われるが、一番盛り上がる「華の二区」にあたり、大変魅力があると思う。

(座 長)

西平沼町に大規模なマンションができて、人口が増加していると思うが、それが街、地区に対してどのように影響しているのか。

(委 員)

子どもがだいぶ増えて地区はにぎやかになったが、悪い影響はない。逆に歓迎している。

(委 員)

横浜駅から桜木町まで、東横線が廃止された後の高架利用はどのようになっているのか。

(オブザーバー)

東横線の跡地は、平成28年の完成を目安にして、現在計画を詰めている段階である。東横線の旧桜木町駅舎は、今年度中に解体工事に着手する予定である。

(委 員)

以前、横浜駅から桜木町まで高架を子どもたちに渡してもらおうというイベントの下調べのため、西区役所の職員と実際に歩いたことがある。区制70周年に絡めて、東横線跡地を活用するアイデアを出し合っていくと、西区の目玉となる素晴らしいものができるのではないかと。

(オブザーバー)

現在、文化観光局と都市整備局が共同で、東横線跡地の魅力づけということで、どんな形で整備をしていったらよいか検討しているところである。

(委 員)

基本的には遊歩道を作ることだが、自転車も通れるのか。

(オブザーバー)

「自転車が通れる遊歩道」というコンセプトは確定しており、その方向で検討を進めている。

(座 長)

あの場所は、現在壁のようにになっているが、バリアになっているものが逆に魅力的なものになり、かつ、みなとみらい地区との間を行き来できるような形になるとよいと思う。

(オブザーバー)

JRを横断しなければならないので、技術的には難しい面もあるかと思う。みなとみらい地区から戸部方面へのアクセスについての方法を検討するという考え方もある。

(座 長)

三菱ドックの昔の正門をランドマークとして捉えなおせば、ポイントとなり単調な壁が少し変わるのではないかと思う。

(事務局)

オブザーバーの説明のとおり、東横線跡地の活用は、大きな方向として「自転車が通れる遊歩道」ということで、これからその魅力づけをどうするかということ都市整備局と文化観光

局が共同で進めているところである。西区役所としてもご意見をいろいろといただきながら、こういう魅力づけができるのではないかと検討させていただきたいと考えている。

三菱正門の跡地は、この委員会で、こういう形が面白いのではないかとアイデアをいただければ、西区役所としても委員会の案として関係局に伝えていきたいと思っている。

(座長)

既に大きな方向性は決まっているとのことだが、同じ鉄道高架活用の事例としてニューヨークのハイラインがある。当初計画としては壊してビルにする予定だったが、周辺住民によって保存の方向になり公園として整備した。この事例ではワークショップ等をやりながら使い方を決めていった。東横線跡地では、ニューヨークと同じようにはできないかもしれないが、住民参加型のデザインワークショップのようなものは可能性としてあるかと思う。

(委員)

西区は暮らしやすさをもっともっと追求しなくてはいけないと思っている。住んでいる人にとっても、訪れる人にとっても、もっと安らげる街になるように考えていくには、商店街をもっと少ししっかり支えていく必要がある。

先程から話題に出ているが、東横線廃線跡地の「壁」をバリアとして、遮るものとして考えるのではなく、区民が誇りに思える何かシンボリックなものにするということが、今回の事業の目玉になるのではないかと思う。

次世代の、つまり今育っている子どもたちが誇りに思う街とは何かという視点でこの街を考え直すと、また新たなものが出てくると思う。子どもたちがこの街の何に誇りを持てるかは、大人が伝えるものであると同時に、子どもたちが発見するものではないかと思う。

また、地域の歴史や文化などを、そこを訪れる人あるいはそこで暮らそうと思っている人に伝えるということが重要である。伝える仕掛けは、人、本、マップなどいろいろあると思う。情報発信する上で、そうしたものを継続して区民に提供していく、そして伝える人を継続的に育てることを考えていければよいと思う。

企業の方々には、そこに人々を集め、そこからその人々を周りの地域に送り出すという仕掛けをしていただきたい。また、例えば何か社会的な貢献をすることによって、地域に何かを投げかけるとか、そういうことをやっていただけると、みなとみらい地区あるいは横浜駅周辺地区と、古くからの町の地区とがしっかりと絆によって結びつくのではないかと考えている。

(委員)

西区とともに歩んできた企業として検討委員会に参加させていただき、地域のお役に立てればと思っている。

当社は横浜駅東口の開発に関して非常に積極的に取り組んできた。いろいろな企業ができ、多くの人が東口で働いているが、実際に西区がどういう街かということ全然知らないで働いている人々も多いのではないかと思う。

まず働いている人々に、「自分はこんなところで働いている」ということを知ってもらうことが非常に重要だと思う。今回、企業と地域と一緒に参画できるものを提案できれば、西区全体が盛り上がっていくのではないかと思う。

(委員)

西区はどういうところかと考えると、横浜駅という巨大な駅を抱え、一日に膨大な数の人々が往来し、居住者は少ないけれども来街者が非常に多い街である。

横浜駅西口には高島屋があり、東口にはそごうがある。みなとみらい地区にはランドマークタワーなど大商業施設がある。西区で企業活動をさせていただいているので、西区に何らかの地域貢献を行いお役に立つことが当然必要だと考えている。神奈川県内あるいは横浜市内、ま

た東京からもかなりのお客さんが集まる中で、西区の魅力アップということを「誰」に対して考えるのか。西区の居住者の皆さんに対してなのか、あるいは西区に、横浜駅に来られる人々に対してなのか。西区の居住者の皆さんだけのための魅力アップだとすれば、もったいないという気がする。横浜駅や西区に来られる何百万の人々に対して、西区の魅力をアピールする方法を考えていかなければならないと思う。

横浜駅周辺で進められている「エキサイトよこはま22」計画は、一つの好材料になるかと思っている。

西区以外から来る多くの皆さんにも、どのように西区の魅力を伝えていくのか、必要性の有無も含めて議論をすることが必要と思う。

(委員)

「西区の魅力アップ」というこの検討委員会の趣旨に賛同して、参加させていただいた。

横浜駅は、買物に來たり、通勤・乗換えをしたりというお客さんは非常に多いように思う。横浜駅周辺の商業が西区とともに発展していくためには、横浜駅を降りたお客さんがその近辺まで歩いてもらったり、バスに乗ったりして散策してもらうことが必要と思う。西区の様々な観光資源など、お客さんをそこに連れて行くための魅力づくりが必要になるので、この検討委員会の中で一緒に西区の魅力は何か再発見していきたいと思っている。

(座長)

ここまでの話をまとめると、「東横線廃線跡地については、バリアという捉え方をせずに子どもたちが将来誇れるものにしていく、またそれを伝える人を継続的に育てることが必要ではないか」、「人を集めるだけでなく、地域へ送り出すという視点が必要で、それは働く人たちも含めて考える必要がある」、「横浜駅などでは、西区民だけでなく多くの人々が交流するというところで、西区をどう解釈するか、誰に対して魅力をアップしていくのかという主体の視点が必要ではないか」というご意見をいただいた。

また、区内には、普段我々があまり気づかない魅力が埋もれている可能性もあると思う。例えばみなとみらい地区に住んでいる子供たちは、みなとみらい地区の環境はそれはそれで素晴らしいが、野毛山公園などの環境に新しさを感じることもあるのではないか。逆に野毛山公園からみなとみらい地区の方を見ると、美しい都市景観が見られる。そういうところから交流は進んでいくと思う。

また、駅と街の関係の視点から、課題のある一例を挙げると、池袋は「えきぶくろ」とも言われるように、駅には人が集まるが駅の外には人が出ていかないという問題があり、いろいろ検討されたことがある。事務局では、他都市の事例等の調査も行っているとのことで、参考になるのではないかとと思う。

(事務局)

本日は様々な視点からの議論いただいたので、次回は、今回の議論のエッセンスをまとめ、少し叩き台になるようなものを用意させていただきたい。それを検討していただきながら、さらにアイデアを盛り込んでいき、建設的な議論をさせていただければと考えている。

次回の第2回検討委員会は、12月16日（金）に開催する予定。

(以上)